INDEX

≪ 特 集 ≫
学校教育と脳教育
第5回グローバルメンタルヘルスセミナー開催 …… 01
子どもの体力・心力・脳力を育てる脳教育 …… 02
世界の教育現場に広がる脳教育 …… 04
子どもの自己肯定感と集中力が高まる脳教育 …… 08
認知症予防に取り組む脳教育 …… 10
事業案内 …… 12

発行
特定非営利活動法人IBREA JAPAN
〒462-0825
愛知県名古屋市北区大曽根4-16-5 IS大曽根3C号
TEL：052-307-8276 / FAX: 052-933-7116
http://ibreajapan.org/

特集

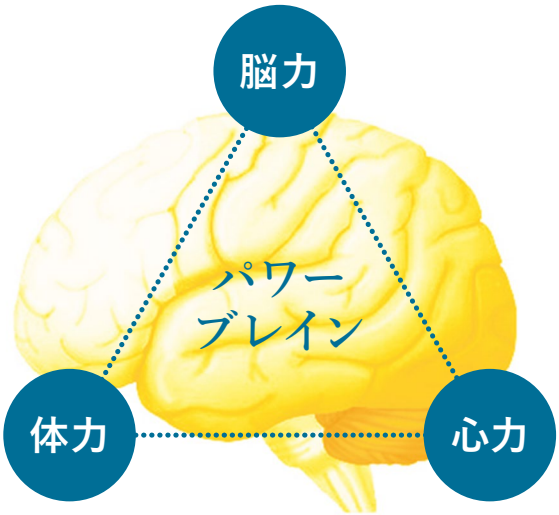
学校教育と脳教育

第5回グローバルメンタルヘルスセミナー開催

「第5回グローバルメンタルヘルスセミナー～体力・心力・脳力をつなぐ脳教育」(主催・特定非営利活動法人 IBREA JAPAN)が8月5日(日)、福岡市中央区天神のアクロス福岡 4階・国際会議場で開催されます。
本セミナーは、世界的に注目されている「脳教育」についての講演および事例発表会です。海外と日本の教育現場で脳教育を導入している教師らが、その実践内容や成果を報告。脳教育とはどのようなものか、そして、脳教育を受けた子供たちがどう変わったか、具体例や研究データをもとに説明します。
また、脳教育と今後の教育のあり方について、世界の学界で幅広く活躍するエマニュエル・パストリッチ地球経営研究院院長が講演します。環境問題や貧富の格差、反知性主義といった地球的課題をふまえ、教育の将来像を提示します。パストリッチ氏はアジアの文化・歴史にも精通しており、日本の伝統的な教育の特徴もふまえた方向性について語ります。
教育は今、世界的に大きな変革の時期を迎えています。文部科学省は知識を詰め込む学習より、子供が自ら課題を見つけ、学び、考え、問題を解決するような「生きる力」を身につけることができる学習への転換を目指しています。
脳教育は、このような変革の流れに適合する教育方法です。体力、心力、脳力をバランス良く育て、子どもたちが主体的に人生を切り拓いて行動する力を高めていきます。自ら立てた目標の達成に向けて取り組む自己実現型のプログラムです。その最新の姿に、本セミナーで触れていただくことができます。

子どもの体力・心力・脳力を育てる脳教育

目標達成は心の力だけではできません。体力の力添えが必要で、脳力が伴う必要があります。体力、心力、脳力の三拍子が揃うとき、私たちの脳は最高の機能を発揮できます。この3つの力がバランスよく開発されて、調和のとれた脳をパワーブレインと呼んでいます。
パワーブレインは、生産的で、創造的で、平和な脳を指します。体力から生産性が生まれ、脳力から創造性が生まれ、心力から平和のパワーが発揮されます。それぞれの力をどれほどバランスよく育てるのかが脳の開発のポイントです。



体力
Body

体力は自分でコントロールでき、決心すれば簡単に高められる力です。目的達成のために体が障害にならないくらいの体力は必要です。もっと具体的に言えば、生産的な結果を出すことができ、自分の決めた目標に向かっていくときに、体が支えてくれるくらいの体力を言います。いくらよい機会が訪れて、よい構想や計画があっても、それを実行する体力がなければ、何の結果も出せません。運や機会は誰にも開かれていますが、その機会をつかむ人もいれば、機会を逃す人もいます。機会がやってきたときに逃さないために、必要なときにいつでも不自由なく動けるように活力ある体を作る必要があります。

体力維持は、考えではできません。これは人からさせられてできることでもなく、お金で買えるものでもなく、ましてやテストのように一夜漬けでできることでもありません。体力は筋肉や骨、心臓の絶え間ない鍛錬を必要とします。そのため、体力維持は単純に健康に役立つだけ

でなく、自己コントロール能力、誠実さ、責任感、意志の強さを鍛錬する、よい方法でもあるのです。体を動かしてあげると、神経機能がよくなり、その刺激が大脳に伝わって脳が活性化します。運動している間、脳からもいろんな司令が神経に伝わり、体をより敏捷に動かせるようになります。脳が外部の刺激を積極的に受け入れ吸収する一連の過程を通して、状況判断力や認識力の感覚が備わっていきます。

体力は、学習の質を決定づけます。体を動かすと、神経機能がよくなり、その刺激が大脳に伝わり、脳が活性化します。食事や睡眠のように運動も自然な日常になることが大事です。

心力
Mind

心力は自分自身の本来の品性に根ざした力です。香水を見えないところに置いても、香りでその存在がわかるように、心力は、目に見える形で自慢しなくても、周りの人には感じられます。言葉や行動、服装や表情などは、わざと作ったり、練習して洗練させることもできます。しかし、それが内面から自然ににじみ出るのでなければ、結局は内と外の矛盾と不協和音が現れてくるものです。

特に心力がパワーを発揮するのは、私たちが生きていく中で、難関や試練、危機に面したときです。信義や正直の原則を守る代わりに個人的な利益を選択するかもしれないとき、または価値があると思う原則を守るために安全が危ぶまれたり、耐えなければならない体の苦痛が予想されるとき、そのような挑戦や試練の瞬間にどんな選択をするかによって、心力が現れます。「利を見ては

義を思う（見利思義）」という言葉が適応されるのが、まさにこのような状況です。

心力の程度を把握するのに、多くの説明は必要ありません。あえて言葉で説明しなくても、その人の行動を通して、その人が見せる姿を通して、人々に伝わります。心力は、沈黙のうちにも人々を覚醒させ、感動させます。心力は、希望を与え、平和を創造する力です。心力を育てるためには、外に向いていた視線を内に向け、自分自身に集中する必要があります。虚像ではない実体、つまり、人生の本質に近づくとき、心力指数が高まります。

脳力
Brain

脳力の基準は情報の量と質です。大事な点は、脳力は単純に知識が多い少ないという問題ではないということです。脳力のポイントは、情報を判断して評価する情報、言い換えると、理論や哲学があるかどうかです。これは、いくら強調しても強調しすぎるということはありません。哲学は、地図や手引きのようなものです。これは、私たちの人生に方向性を与え、選択しなければならない多くの状況において葛藤を減らしてくれます。理論や哲学があれば、そのぶん私たちは気分や感情にあまり支配されなくなり、より正しい選択ができます。

知識そのものは中立的です。それは使う人の選択によって、良くも悪くもなります。そのため、良心にもとづいた健康な理論や哲学のない知識は、危険なものになりやすいのです。哲学は、脳において一種の免疫システムとも似た役割をします。これはまるで門番のように、脳に出入りする情報を点検して評価します。

脳の中の情報が変わると、考えが変わり、言葉が変わり、行動が変わり、運命が変わります。これは運命の方程式です。脳の中の考えを具体化したものが言葉で、その言葉を実践に移したものが行動です。したがって、親

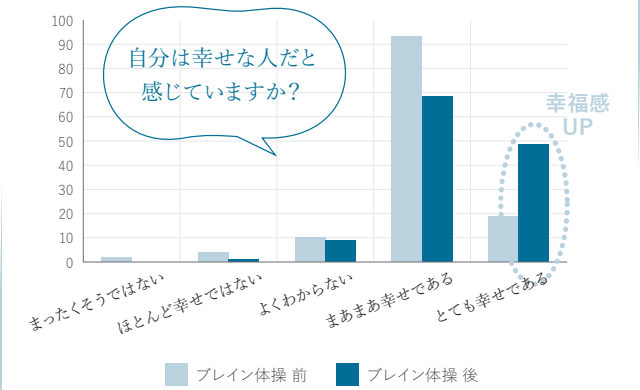
が子どもの脳にどんな情報を入力させるかによって、子どもが何を考えて、何を話し、何を行うかが決まります。

脳力を決める、もうひとつの大事な要素は、行動力と実践力（実行力）です。わかってはいるけど行動できないというのは、意味がありません。考えてばかりで行動しないのは、それだけ脳のパワーが弱いということです。体を動かせるくらい十分に強い信号が脳から送られていないのです。行動なしには、どんな創造もありません。行動なしには、それこそ何も起こらないのです。だから、「ただやる」ことがとても大事です。私たちが恐れるべきことは、知らないことではなく、知っていることを行動しないことです。何をすべきか分かっているだけでは十分ではありません。分かっていることを実践に移すのが、事の勝敗を左右します。理想は高く、現実は一歩から。一歩一歩着実に歩んでいけば、いつかは目標に到達するようになっています。脳力を養うためには、質のよい情報の入力が大事です。

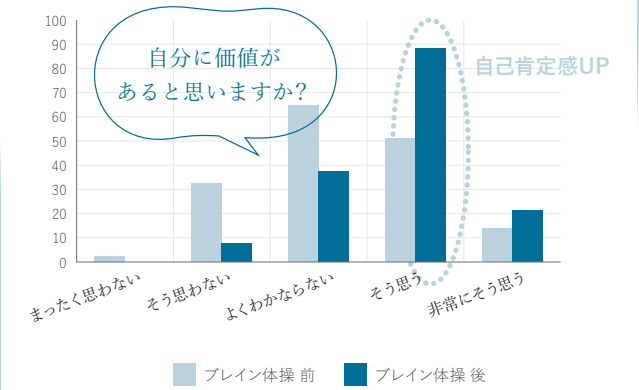
世界の教育現場に広がる脳教育

健康増進のほかにも幸福感、自己肯定感、学習効率の向上などの成果が報告されています。

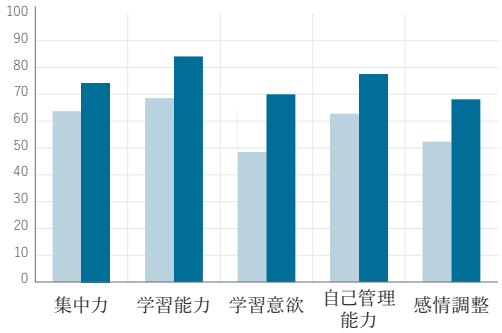
幸福感



自己肯定感



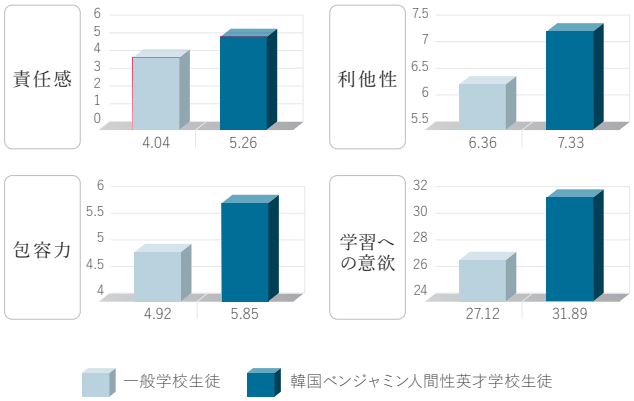
学習効率



小学校5年生の2学級を選定し、3ヶ月間脳教育プログラムを実施。脳教育プログラムが集中力、学習能力、学習受容姿勢、自己管理能力、感情コントロールなどに効果的な影響を与えることが明らかになりました。

（学習効率に対する影響の研究）

人間性



国際脳教育総合大学院大学では、脳教育プログラムで構成した授業を行っている韓国ベンジャミン人間性英才学校の開校後から5ヶ月間、1期生26名と一般の学校の生徒を対象に量的調査と質的調査を行い、脳教育教育課程は、一般の学校よりも責任感、包容力、学習への意欲などを総合的に向上させる傾向がみられるという研究結果を発表しました。

（2015年10月 学術誌「JBE特別号」より）

韓国

「脳活用しあわせ学校」校長ワークショップ開催 昨年に引き続き、2度目

昨年6月28日に開催された、第1回「脳活用しあわせ学校経営のための校長研修」には、小中高校及び特殊学校の校長約300名が参加し、脳活用しあわせ学校への関心の高さが伺われました。その後、33校が脳活用しあわせ学校実践のための業務協約を提携し、今年6月1日、33校の協約学校の校長や教師など約40名が参加して「2018脳活用しあわせ学校経営のための校長及び担当者職能強化ワークショップ」が行われました。このワークショップは、「脳活用しあわせ学校ヒーリング体験」に始まり、「脳科学と脳教育の理解」「感情コントロールと脳科学」「脳活用しあわせ学校経営優秀事例」「脳活用しあわせ学校経営コンサルティング及び質疑応答」と続きました。

「脳科学と脳教育の理解」をテーマに発表したグローバルサイバー大学脳教育融合学部のジャン・レヒョク教授は、同じようにゲームをしていても年俸30億ウォンのプロゲーマーになる子もいれば、ゲーム中毒になる子もいるのはなぜかと問いかけ、教育の方向性が人間の脳の特有性の向上にあるべき、脳活用の方向性と価値を省察する必要があると強調しました。

2017年韓国教育部の教育課程優秀100校に選ばれた慶尚北道聞慶小学校の教師ジョン・ジェヨン先生は、「脳活用しあわせ学校は、まず教師と保護者の体と心が健康で幸せでこそ、教育共同体が幸せな文化を作ることができる」と強調しました。脳活用しあわせ学校を本格的に始める前に2016年からすでに地域の脳教育協会の支援で教師教育と保護者教育をスタートし、家庭と学校と社会が連携して脳活用しあわせ文化を作っていると述べました。

この日のワークショップを主催した国際脳教育総合大学院大学のシン・ジェハン教授は「人は誰しも幸せな人生を夢見ます。しかし、幸せは遺伝的な環境やお金、名誉、健康、外見などの外面的な環境よりも自分自身をコントロールできる内面的な環境のほうが重要。このような内的環境をうまくコントロールするために、肯定的な感情、大きな価値ある夢と目標の設定、誰もがもつ本質的な自信を回復させられるのが脳活用しあわせ教育」だと説明しました。

- 脳教育職務研修を履修した教師 7,720名
- 脳教育を履修した生徒 108,110名
- 脳教育を導入している 幼稚園・保育園 250カ所
- 大学、大学院で脳教育の 学士・修士・博士を輩出
- 2009年「ブレイントレーナー」が 韓国政府公認民間資格となる

日本

141ヵ所の教育施設で 5千人以上が脳教育を体験

小中学校の授業、PTA、放課後教室、保育園、幼稚園、大学、専門学校 など141ヵ所の教育施設で5,000人以上が脳教育を体験しています。2015年には、某市の教育委員会が作成した学習支援パンフレットに脳教育トレーニングが採用されました。

アメリカ

400校、教師1万2000人、 生徒5万人が脳教育実施

2015年、ニューヨークのブロンクス7学区6校で11〜14歳の生徒180名を対象に8週間の脳教育テストプロジェクトを実施した結果、ネガティブな感情指数は平均67%まで下がり、共感や思いやりなどの向社会性は50%まで上昇しました。これを受け、ニューヨーク市の教育庁は脳教育を導入する学区を補助すると発表しました。

デンマーク

デンマークの小学校でヨーロッパ初の全教職員対象脳教育教師ワークショップ開催

脳教育で、児童の潜在能力を発揮できる環境づくりに期待

デンマークの首都コペンハーゲン近郊のゴスレブ市にあるエレベクスクーレン特殊学校で、全教職員対象の脳教育教師ワークショップが行われました。この小学校は毎年、教員職務研修を実施しており、ジーン・リセ校長は脳教育を通して教師がもっと幸せになり、児童が自信とプライドをもてるような学校の環境づくりができることを期待して、今回の脳教育研修を決めたと明らかにしました。

ワークショップが行われるまでの1年間、脳教育講師資格をもつ教師が授業に脳教育を活用してきました。その結果、脳教育が児童の可能性に希望を与えるだけでなく、その可能性を実現できる方法を提供していることが分かり、今回のワークショップにつながりました。ワークショップに参加した60名の教職員は、教師だけでなく心理カウンセラー、言語治療士、保護者会の委員も含まれていました。この小学校には様々な特殊教育ニーズがある90名の児童が在学しており、大多数が自閉症の児童です。

アメリカの脳教育教員研修専門機関であるブレインパワーウェルネスを招待して行われた今回の脳教育教師ワークショップは、脳教育の根幹をなす原理と哲学を理解し、脳教育の様々な活動を体験できるように設計されました。参加者は、最初は疑わしい目つきで静かに座っていましたが、チームワーク活動のために体を動かしながらだんだん心が開いていきました。リセ校長は、教師が楽しく参加して大声で笑っているのを見て、驚きました。初日は参加できず、2日目に参加した校長は「1日だけで変化した教師たちの様子に驚いた。全員が交流しながら楽しんでいるなんて。普段、否定的だった教師さえも、すごく肯定的に変化した。このプログラムのパワーは驚異的だ」と感嘆しました。

参加者は、脳教育の様々な活動を学校で活用するためのアイデアを情熱的に提案しました。ある心理カウンセラーは、脳教育が一般の脳トレーニングプログラムが提示している理論にヨガや気功でしている身体活動の方法を融合している点が、児童に適用しやすいと評価しました。また、担任を受け持っている教師は、協力し合うとはどういうことかを感じられるようにすると抱負を述べました。

イタリア

イタリア南部のフォギア大学で国際交流を目的に脳教育講演

イタリア南部のフォギア大学が、日本からエルガ・ストラフェッラ博士を招き、脳教育講演を行いました。フォギア大学は、日本でのイタリア語教育を含めた日本の教育状況に対する理解を高めるため、国際交流講演を用意しました。

1日4時間で2日間行われた講義に、現職教師や教師予定者、教育学専攻学生など、約100名が参加しました。2日目の講義でストラフェッラ博士は、日本の若者は自己肯定感や意欲、共同体に関わろうとする意欲が低く、うつなどのメンタルヘルス

エルサルバドル

中米のエルサルバドルで公教育に導入
自信向上、ストレス低下、情緒発達、成績向上

2011年1月、国連本部で行われた国際セミナーにエルサルバドル国連代表部のカルロス・ガルシア国連大使が参加し、脳科学と教育を融合した新たな教育方法論のアメリカでの適用成功事例の発表を聞きました。ガルシア国連大使は本国に脳教育導入を提案し、同年2月、エルサルバドル政府は教育援助を公式要請しました。

長年の内戦により暴力が深刻な社会問題となっているエルサルバドルの青少年たちは、劣悪な環境や困難は克服しがたいという否定的な認識が強く、未来への夢や楽観的希望を持てず、比較的早い時期から社会的な犯罪に巻き込まれることが多いです。こうした問題にいち早く取り組んでいる学校だけでなく、政府でも改善方案を模索している状況でした。

2011年のテストプロジェクトは、エルサルバドル10地域のうち、最も暴力が深刻なサンサルバドル地域の学校で3カ月間行われました。生徒と教師を対象に情緒涵養と自信向上のための脳教育クラスを運営した結果、生徒の欠席率の低下、性差別の減少、自信の向上、ストレスの低下、情緒の発達に著しい効果が見られました。

テストプロジェクトの成功により、2012年に新たに4校に教育援助を実施。その結果を受けてエルサルバドル政府は、2013年に177校に脳教育を導入し、現在約2,000校に導入され、出席率や学業成績の向上などの報告を受けています。

アフリカのリベリアにも導入され、生徒と教師のトラウマ軽減や学習意欲の向上が見られました。

低下が社会問題に台頭していると指摘し、その代案に浮上している脳教育を紹介しました。脳教育の基盤技術である脳のオペレーティングシステム（Brain Operating System、BOS）と、身体脳、情緒脳、実行脳、社会脳、学習脳、平和脳の6つのカテゴリーで脳活用能力を高められる脳教育の教育原理とプログラムを提示しました。ブレイン体操やブレイン瞑想を体験した参加者は、「体が軽くなった。頭痛がすっかりなくなった」など、とても満足した様子で、イタリアで脳教育を学べるところがあるかなどの問い合わせが相次ぎました。

講演前のインタビューで、言語と文化から人間を理解しようとしていた彼女の学問的関心が、脳教育につながった背景を次のように説明しました。

「脳教育は、脳を通して人間を理解する教育だと思います。私は、幼いころから好奇心が旺盛で、新たな試みを恐れずに多くの経験をし、世の中についての知識がとても多いと思っていました。でも、脳教育によって新たな自分を知っていく過程で、私に本当に必要な知識がこれまでなかったと気づきました。脳教育のさまざまな教育プログラムに参加して、脳を通して、私は誰か、私が願っているものは何か、という問いの答えを探し始めました。そして、私は人類の一部分だから、私自身について体験的に分かったことから出発して、これを広げていけば、人間と存在についてより理解できると思います」

子どもの自己肯定感と集中力が高まる脳教育

こども脳教育専門教室　小中高校キャリア教育　サマーセミナー

ブレイントレーナーになったきっかけは？

話
ブレイントレーナー
中村 仁美

以前は薬剤師をしていました。
ガン患者と関わることも多かったのですが、末期ガンの方は、悲観的で後悔ばかりする人と、悔いのない人生だったと思う人に分かれました。同じ治療をしても悲観的な人は回復がよくなく他の病気にもなることもあり、肯定的な人は早く回復しました。
その差に疑問をもっていた頃、脳教育に出会いました。結局、メンタルの差によることですが、自己肯定感や自信感はどんな風に形成されるのだろうと悩み始め、やはり子どもの頃、特に小学生の頃に決まることが多いという考えに至り、本格的にこども脳教育を始めました。

どんな活動をしていますか？

こども脳教育専門教室を運営しながら、労働局のハローワークの講師として小中高校からキャリア教育の依頼があれば学校で脳教育の講義をし、トレーニングの体験も指導します。小中高生と教員を対象に実施したサマーセミナーでも講義しました。物理的な脳の話ではなく、脳をよく活用して明るい脳になる方法について初めて聞く子どもも多く、興味津々で希望を感じる子も多いです。教育現場の子どもたちと直接触れ合うことが大事だと感じています。

▼ こども脳教育専門教室の様子

▲ 小中高キャリア教育

脳教育で見られる子どもの変化は？

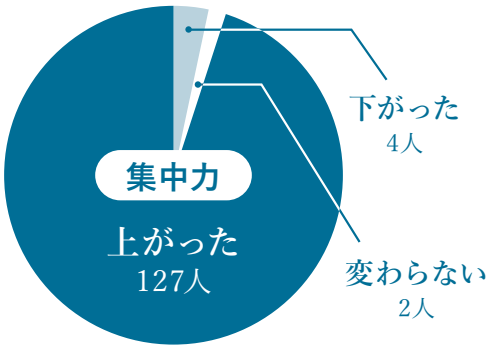
授業や講義では、ブレイン体操と呼吸、ブレイン瞑想がメインになります。他と違うことは、単に体を動かすのではなく、自分の存在価値に気づいて自己肯定感や自信を高められる、原理に基づいた体操、呼吸、瞑想だという点です。
先生方は、生徒が普段、言うことを聞かないので、別の講師の話なら聞くだろうとイベント的に考えてきっかけを作ることもありますが、初めて脳活用の話を聞き、ブレイン体操と呼吸、ブレイン瞑想を体験した子どもたちは、とてもよく理解して深く体験し、自分の未来に肯定的なイメージを持つようになったり、習ったブレイン体操をテスト前にするなどの反応が多いです。
教育現場では、自己肯定感をどう高めるかが最も根本的な悩みで、課題ではないかと思います。自己肯定感が高まることで自分の未来に前向きになり、夢を叶える力が強くなります。
具体的には、行きたい学校に進学したり、リーダーに選ばれたり、ピアノの発表会で自信を持って演奏できたり、スポーツの目標記録を達成したり、失敗しても諦めずにまた挑戦するなど、良い変化が見られます。

集中力アップに関心のある子どもや親も多いのでは？

そうですね。学校で勉強をするにも、楽器演奏やスポーツをするにも、集中力の必要性は生徒と先生、親、みんなの悩みですね。
特に集中力の変化についてはデータを取っていますが、一番変化が分かりやすいところでもあります。

集中力テスト前後比較結果

（参加者133名）



学校の授業中の姿勢や考え方が変わり、よく集中できるようになったことは、誰より子ども本人が一番実感しているところです。
ブレインスクリーン瞑想をすることで集中力が上がるので、勉強のスピードと感情の切り替えが早くなります。じっと座ってさえいればよく勉強できることではないですよね。自然に脳を効率的に使えるようになります。

▼ サマーセミナー

認知症
予防に取り組む
脳教育

認知症カフェでブレイン体操！

認知症カフェとは？

国の支援のもとで地方公共団体や病院が実施している交流会のひとつです。認知症本人やその家族、認知症予防に関心がある方のために、一般人のボランティアや参加者が楽器演奏をしたりフラダンスを披露するなど、癒しの空間を提供しています。また病院の脳神経内科医や医学療法士による認知症・熱中症などの勉強会も行っており、ビデオを視聴しながら勉強したりもします。

認知症カフェは私が住んでいる区だけでも約80カ所あり、超高齢社会を迎えて本当に力を入れているようです。一部の場所では、出席のスタンプを集めるとプレゼントがもらえたり表彰されることもあります。まず家から出て人と交流できるようにするのが一番の認知症対策になるという考えで認知症カフェが運営されているようです。

ブレイン体操の取り組み

以前勤めていた病院やグループホームで、もともとブレイン体操を指導していましたが、認知症カフェでの参加者の活動は座学が多いとのことで担当者から依頼を頂きました。体を動かせば頭がはっきりした状態になって寝たきり予防にいいので、そして何よりブレイン体操に参加した方々の満足度が高いので取り入れることになったと思います。

話

ブレイントレーナー
水野 恵理子

参加者の反応

ブレイン体操をする日が待ち遠しいようで、皆さん喜んでくださっています。夫婦でご参加の旦那さんが認知症で、最初は背中が曲がっていて表情も暗かったのですが、どんどん明るくなり姿勢も良くなりました。前も参加したのを忘れて毎回初めてのようにされながらも、今はひとりでも来ていらっしゃいます。体操が終わると感想もしっかり話してくださり、スタッフの皆さんも確かに変わったと評価しています。

認知症予防のための自己管理法

健康に関する論文によると、人との交流が長寿の秘訣だそうです。ある認知症カフェでは利用者がお互いになんでも話し合う、単なるおしゃべり会をするところもあるほど、外出して人と会うだけでも元気になるそうです。

そして体の管理ですね。私も65歳であちこち不調がありますが、人に頼らずに生きていく体力を作るのは「私」だから、まずは自分の体と向き合うことが大事です。専門家から体の詰まりを解消する方法や筋肉を強化する方法を正しく学んだり、毎日数回1分運動を行うなど、日頃のメンテナンスが大事だと思います。これは誠意を込めないとできないことですね。形だけではなく心から自分を大切に思い、私はこんな人になると目標を決めて日々実践すると、脳はその目標に向かって元気に働き、認知症予防にも役立つと思います。

認知症に対する認識の変化が必要

アルツハイマー支援の講演で心に響いた言葉があります。「認知症は一部が壊れていること。だから人間としての尊厳を忘れないでください」

認知症の方の家族が、認知症かどうか分からないことが多くあります。分からないので感情的になるし、認知症のご本人はそれに反発して怒りが出ます。私も義理の母ととても仲が良かったのに、母が認知症になってから感情コントロールができなくなった辛い経験があります。一歩引いて眺められないのは確かに勉強不足だと思います。認知症に対する正しい知識が必要です。その上で、人生の先輩であり私たちの未来の姿である認知症の方を尊重することができます。認知症の人がよく怒るとしたら、それは家族の知識不足でしょう。知恵と礼儀の欠けた世の中になってはいけないと思います。

認知症の家族の勉強やストレス解消を支援できる仕組みや社会支援が必要です。ブレイン体操、呼吸、瞑想で感情を切り替える方法を伝えることが、家族のストレス解消に役立てばと思います。

日本に広がる脳教育
実施場所 約500カ所、3年で約5万名が体験・実践

脳教育は現在、日本で、学校関連施設141カ所をはじめ、企業、文化センター、老人ホーム、公園など約700カ所で実施されており、
この3年だけでも約5万名が脳教育を体験・実践しています。

実施場所
700カ所
（2018年7月現在）

体験者
5万人
（2016～2018年7月現在）

講師
1,530名
（2018年7月現在）

教育現場
キャリア教育
サマーセミナー
教職員研修
PTA

IBREA JAPAN 主な事業

ブレイントレーナー派遣
小学校～大学、各種団体、企業に
ブレイントレーナーを派遣しています。

ブレイントレーナー資格の発行
ブレイントレーナーは健康な人生を送る
脳活用法を習得したスペシャリストです。

脳教育セミナーイベント
「脳教育」の有用性を知り、実際に体験して
いただくために全国で活動しています。

自治体
婦人会、老人会
行政機関
職員研修

高齢者施設
認知症カフェ
120歳クラブ

ブレイントレーナー派遣受付中

IBREA JAPANでは、脳教育の原理やブレイン体操指導を希望する団体様に出張講習会やブレイントレーナーの派遣を行っております。職員教育や研修などにご好評をいただいています。お気軽にご相談ください。 ☎052-307-8276

IBREA JAPAN
International Brain Education Association

【特定非営利活動法人IBREA JAPANについて】

特定非営利活動法人IBREA JAPANは、国際脳教育協会（International Brain Education Association：IBREA 会長 李承憲）の日本支部として1997年に活動を開始。2007年1月にNPO法人として登録しました。今日の発達した科学技術文明が人間の脳の創造性から始まったように、人類の直面している危機を解決するカギも人間の脳の中にあるという認識にもとづき、平和な脳をつくる哲学、原理、方法論を備えた「脳教育」の必要性と価値を社会に伝えることによる、人類のよりよい未来づくりを目指しています。

◀ IBREA JAPAN公式サイト

国連報告書
「国際脳教育協会
持続可能性報告書
2016」
もご覧いただけます

発行
特定非営利活動法人IBREA JAPAN
〒462-0825
愛知県名古屋市北区大曽根4-16-5 IS大曽根3C号
TEL：052-307-8276 / FAX: 052-933-7116
http://ibreajapan.org/